

6月は食育月間です



日本では近年、朝食の欠食など「食」をめぐる様々な問題が見られます。

食育は生きる上での基本であり、さまざまな経験を通して「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てるものとしてその推進が求められています。

子どもの食育では学校、家庭、地域などが連携してすすめる必要があります。

食をめぐるさまざまな問題



「食」を大切にする心の欠如



肥満や生活習慣病の増加

- ・ 栄養バランスの偏った食事や不規則な食事の増加
- ・ 過度のそう身(やせ)志向
- ・ 「食」の安全上の問題の発生
- ・ 「食」の海外への依存
- ・ 伝統ある食文化の喪失

久寺家中学校で取り組んでいる食育

★我孫子産米、我孫子産野菜の活用

地域でとれる食材は、生産者の顔が見え、新鮮で安心です。生産者を身近に感じることで食べ物への感謝の気持ちも生まれます。



我孫子市の給食では、一年を通して我孫子市でとれた「コシヒカリ」を使用しています。市内でとれたお米は玄米の形で保管され、毎週必要な分ずつ精米して学校に届けられています。

また、我孫子市では地元農産物を使った「我孫子産野菜の日」を設けています。当日は、収穫されたばかりの新鮮な野菜を使って給食を作っています。

★栄養教諭を中核とした食育の推進

食育全体計画に基づいた給食運営や授業への参画

保護者対象とした給食試食会や地域の親子クッキングスクールの運営

(今年度は、林間学校の日程に合わせて5月25日(木)に実施。試食会の様子アンケート結果については、後日食育だよりに掲載予定)

ホームページや食育だよりの活用により、保護者や地域への情報発信を食育の啓発をする

生徒が家庭科授業で学習して立案した献立を給食で実施
行事食を通じて日本の食文化への理解を深めさせる

